



19世紀半ば頃に建てられたと推定される、江東区内最古の民家建築です。大石家は、農業と漁業を行う半農半漁の暮らしをしており、大正7・8年頃からは海苔のりの養殖ようしょくを始めました。もとは東砂8丁目ひがしすなに建てられていましたが、平成8年に現在地みなみすな（南砂5-24地先）に移築復元されました。

内部は土間部分と床畳部分に分かれ、床畳部分は6畳と8畳の座敷と6畳と4畳半の板の間、計4室からなる田の字型の間取りです。度重なる水害たびかさに対する工夫くふうとして屋根裏が広く作られ、浸水時には屋根裏に避難しんすいし、水が退くまでの間そこで生活できるようになっていました。



屋内のようす



海苔養殖道具

きゅうおおいしけじゅうたく
旧大石家住宅
江東区指定有形文化財（建造物）